

園の教育活動や園運営について目標とすべき課題を設定し、その達成状況を話し合いながら自己評価をし、組織的かつ継続的な改善を図る。また子どもたちの日々の活動に対して学校関係者による評価を受けるとともに評価結果を共有することにより、保護者や地域住民の方々の理解と協力を得て、幼稚園・家庭・地域の連携体制による幼稚園づくりを進めることを目的とする。

(Ⅰ) 建学の精神

「梅檀はふたばより香ばし」

子どもたちの育ちには幼児期の（ふたばの時期）の環境が最も大切

(Ⅱ) コンセプト

「ひとつ芽生えてまたひとつ」

身の回りの事象に興味・関心をもつことが、次へのステップアップに最重要

(Ⅲ) 教育目標

- ◆みんな仲良く （時には喧嘩も必要、そして相手を認めることの大切さを知ろう）
- ◆強い心と体で （強い意志をもって行動することは強い体をつくること）
- ◆最後までやりぬこう （途中で投げ出さず最後までやりぬき、完成の喜び味わおう）

上記（Ⅰ）～（Ⅲ）を根底において、将来を担う子どもたちを教育することを目指す。

(Ⅳ) 令和元年度 園の重点目標

★思ったこと、考えたことを実行できる子になろう。
★最後まで粘り強く頑張れる子になろう。

(Ⅴ) 令和元年度 各学年の重点目標

	重点目標	達成するために取り組むこと	結果
満 3 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情をそれぞれの表現の仕方、自己表現できるようになる。 ・基本的な生活習慣が自分の力で出来るようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が言えるように言葉掛けをしたり、一人ひとりとの話を大切に、それぞれの感情を感じるよう心掛ける。また個々の状況をみて言葉で伝えられるように指導したり、くみ取るようにし、活動で経験した気持ちが伝えられるようにする。 ・基本的な生活習慣を自分で出来るようになるよう、始めにきちんと教え、その子の様子を把握しながら根気よく言葉がけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができるようになってきたり、遊びを通して友だちとの関わりの中で、気持ちを伝えられる姿が見られるようになった。体験した気持ちを楽しかったね、面白かったという子が増えてきた。 ・基本的な生活習慣については、ほとんどの子が自分で出来るようになった。一部の子には、まだ声掛けや援助が必要である。
年 少 組 （ 3 歳 児 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・発見を喜び、保育者や友だちに伝えて表現しようとする。 ・様々な活動を通して出来た喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びで自然物を見つけた時や生活の中で子どもたちが発見したことを聞き逃さないよう耳を傾ける。 ・一人ひとりと出来た喜びを共有し、出来た過程を子どもたちから聞きだし、子どもの喜びを更に大きいものになるよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉や花を見つけて嬉しそうに見せたり、生活の中での発見に思わず声が出たり、言葉や体全体で嬉しさを表現する姿がたくさん見られるようになった。 ・保育者と喜びを共有する事から始めると、子どもたち同士でできた喜びを共有する姿が見られるようになった。

年中組 (4歳児)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れを思い出し、次にすることを自分で考えてやってみようとする。 途中で諦めずにやってみて、出来た達成感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> その状況になった時に、保育者からすぐに指示を出すのではなく、子どもたち自身が考えられるように、質問したりどうすればよいのか問いかけるようにする。 やってみたいと思えるような言葉掛けをし、意欲的な気持ちが芽生えるように工夫した。失敗しても良いことを伝え、失敗してもやってみようとした気持ちを認め一緒に喜び合えるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動に見通しを持ち、自信を持って行動できるようになった。少し不安時には友だちの意見を聞いたり、周りの状況から判断していろいろなことに気付けるようになり、活動が進められるようになった。 活動の過程を一人ひとりと確認し子どもたち自身が理解できたことで、失敗を恐れずに挑戦する姿が見られた。失敗しても出来た事への喜びを感じ、失敗を繰り返しながらも積極的に取り組もうとする姿がみられるようになった。
年長組 (5歳児)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事や活動を通して、行動力、表現力、思考力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会やフェスティバルで、観客にどんな姿を見てもらいたいかわきかけ、自分たちで考えて表現できるように言葉掛けをしたり配慮する。 子どもたちからの提案で、おみせやさんごっこに取り組み、環境設定をしたり遊びが発展するように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表情の大切さや、気持ちを一つにすることの大切さに気付けるようになり、意識して表現する楽しさを味わった。 素敵なおみせやさんを作りたいという、共有の思いを持ち、個人の発想を発揮したり、みんなで考えたり協力し合って進めていくことができた。

(VI) 取り組みへのステップ

①	今年度の重点目標・自己評価項目の設定	年度初め
②	重点目標・自己評価項目の達成に向けた取り組み	年度初め～3学期末
③	学校関係者評価委員との関わり	期中
④	自己評価の実施	12月末・3月末
⑤	学校関係者評価の実施	3月中旬
⑥	該当年度決算書と学校評価結果報告書の作成	4月下旬
⑦	事業の取り組みと会計処理について公認会計士の監査を受ける	5月下旬
⑧	学校評価報告書をホームページにアップする	6月上旬

(VII) 教員の自己評価項目及び結果

評価結果とその項目数

	項目数	評価結果					評価
		A	B	C	D	E	
1. 健康・安全を維持するためのチェック	30	11	10	9	0	0	A
2. 良き保育者となるためのチェック	23	6	13	4	0	0	B
3. 子どもへの適切な対応のチェック	21	10	7	4	0	0	A
4. 適切な環境の構成、計画性のある保育のためのチェック	25	1	5	14	5	0	C
5. 保護者に伝えるためのチェック	20	9	8	2	1	0	A
6. 仲間や上司に伝えるためのチェック	24	6	6	11	1	0	C
7. 保育研究と研修への努力のためのチェック	22	2	4	11	5	0	C
8. 遊具や教材の研究、幼児理解の研修、自己研鑽のためのチェック	25	2	4	13	5	1	C
9. 保護者に信頼されるためのチェック	30	9	15	6	0	0	B
10. 仲間・上司に信頼されるためのチェック	38	13	13	12	0	0	A
合計	258	69	85	86	17	1	C

上記は各項目に対する自己評価の結果を集計したものである。

(Ⅷ) 2回の自己評価を終えて

職員それぞれが年間2回の自己評価を通して職員同士の連携や資質向上、安全管理の強化や施設設備の充実等に真剣に取り組む、園として、また学年の重点目標の指導についてはおおむね達成できた。自己評価の各項目の集計結果、十分でなかった点、特に評価の低かった項目については今後取り組むべき課題として継続的に取り組み、各課題をクリアできるように各自努力し、その努力が実って、質の良い保育を行えるように取り組んでいきたい。

財務状況：監査法人の監査を受け、予算・事業ともに適正に実施されていると認められている。

◇日常の保育等についての学校関係者・評価委員、評価と意見◇

評価者（1）

- ・どろんこ遊びやクッキング等、家庭ではなかなかさせてあげられないようなことを、させてもらえるので有り難く思います。
- ・習字や絵画・体操等、外部の講師の授業や、日本太鼓・水泳・フェスティバル等色々な経験をし、成長することが出来たと思います
- ・目的を持ってそれを達成するために努力し成し遂げた時の喜びや、友だちや物を大切に作る等、これから生きていくうえで必要となる事を、日常生活を通して教えてもらいました。
- ・ふたば会本部役員の仕事分担を明確にするようが仕事がやりやすくなると思います。

評価者（2）

- ・園内の教員・職員が常に明るく接してくれます。
行事全てにおいて、教員が全力で取り組んでいるように感じます。
- ・日常的に制作・絵を描く活動があり、とても良いと思います。
- ・子どもがのびのびと行動し、たくさんの事が出来るようになり、友だちとの接し方も良くなりました。

評価者（3）

- ・日常保育では子どもがのびのびと楽しく過ごしなが、個性を伸ばすことが出来ていると感じます。
ただ自由に過ごすのではなく、人との関わりも大切にしながら、思いやりの心をはぐくむことが出来ていると感じます。
- ・行事への取り組みに関しては、教員が目標に向かって子どもたちを指導している事で、子どもたちの成長につながっていると感じます。